

「緑のカーテン」育て方マニュアル

さあ、あなたも緑のカーテン作りに挑戦してみましょう。種から芽が出て、ツルがだんだん成長して緑のカーテンができていく様子を見るのは、とても楽しいものです。ぜひ、あなたご自慢のカーテンを作ってくださいね！

この育て方マニュアルは、誰もが手軽に緑のカーテンづくりを楽しめるようにすることを願って、「NPO エコバンクあいち」の会員により作成されたものです。ご利用いただく皆様からの助言やアイデアをフィードバックして、より分かりやすく、役に立つマニュアルとなることを目指しています。皆様からのご助言・アイデアをお待ちしています。なお、動画マニュアルも公開しておりますので、この育て方マニュアルとあわせてご覧ください。



緑のカーテンをつくるために…

ポイント 1

まず種や苗を植える前に、よい土*をつくろう。

*よい土とは…… 通気性

保水性・通水性

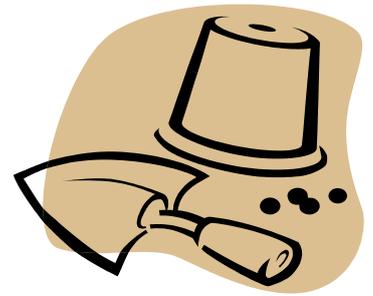
保肥性

のある土です。

1. 土づくり

<地植えの場合>

1. 土を深さ 30cm以上耕す。
2. 腐葉土や堆肥、肥料、石灰を混ぜ合わせる。



植物の根は、養分や水の他、酸素も大好きです。そのため土を耕して空気を送り込んだり、腐葉土等をすきこんで余分な水が引く水はけのよい土をつくらせて、根が水の中の酸素も取り込めるようにします。

肥料を施すのは、窒素、リン酸、カリウムの三大要素などの要素不足を補うためですが、過剰に施すのは禁物です。肥料濃度が高いと直接根にダメージを与えてしまうので、施肥は少なめで十分です。

また、酸性になりやすい土中を中和するために、石灰が必要です。石灰には苦土石灰、有機石灰などがあります。もみ殻を炭化したもみ殻くん炭を使うのもよいでしょう。

2. の腐葉土や堆肥、肥料、石灰は、いずれも購入商品の使用説明通りに適量を使用しましょう。

<プランターを使用する場合>

1. 鉢底土をプランターの底に入れる。
2. その上に培養土(または土)を入れる。
3. ウォータースペース*をつくるのを忘れずに。



*ウォータースペースとは・・・プランターの縁から土の表面までの空間のこと。水を入れた時にプランターから水とともに土があふれないように、土をプランター一杯に入れずに数センチの余裕を残しておく。

- プランターはなるべく大きいものを用意しましょう。
家庭で使用される 20cm×60cm程度のプランターは、夏季の温度上昇に耐えることができない場合があるので、大型で、地盤との間に空間があるものがよいでしょう。また、コンクリートに直接置かないことが重要です。やむを得ない場合には、プランターの下にすのこなどを置き、夏季の熱気により根が傷むことを防ぐ必要があります。
- 土は、市販の培養土を利用すると手軽です。
自分でつくる場合は、[赤玉土(小粒)7:腐葉土 3] + 肥料 + 石灰 の配合で、ブルーシートの上などでよく混ぜ込むとよい土ができます。
ただし、腐葉土の品質には差があるので、粗悪品には注意が必要です。なるべく目の細かい完熟のものを使用するとよいでしょう。購入したものが粗いものであった場合は、いったんビニールシートなどの上に広げて干しておき、乾いてから手で揉んで細かくして使用するとよいでしょう。
- 土はプランター一杯に入れず 5cmくらいのウォータースペースをとり、水を入れた時にプランターから水とともに土があふれないようにしましょう。

2. 育て方(例:アサガオ)



最近、苗も大量生産されるので早く出回りますが、気温が上がリ霜の心配のない5月の初旬頃に種まきしても十分に大きくなります。特に発芽までは温度管理がとても大切。暖かく、日当たりのよいところに置きましょう。

<必要な材料や道具等>

- 腐葉土(細かいもの)、赤玉土等、石灰またはくん炭、肥料(有機肥料、化成肥料)
- くわ、スコップ
- ビニールポット(地植えで定植するまで使用)
- ネット、支柱、ローフ(支柱代わりに使用する場合)、プランター(地植えの場合は不要)
- アサガオなどの種(フウセンカスラ、ユウガオ、クレマチス、ニガウリ等の種。苗でもよい)
比較的カーテンになしやすい植物:アサガオ、フウセンカスラ、ユウガオ等
やや熟練を必要とする植物:ニガウリ、キュウリ、カボチャなど実をつけるもの、クレマチス等

<市販の苗から育てる場合>

種苗店やホームセンターで売っているポット苗を利用する場合には、ポットから出して植える前に周りの硬くなった土を少しほぐしてから植えると、根付きがよくなります。

アサガオは、双葉が大きく丸みのあるものは、大輪になります。小輪咲きは、双葉が細くとがったものです。

定植タイミングは、本葉*が2~3枚の 때가望ましい。



良い苗の選び方

- 葉と葉の間の茎が短く、徒長*していないもの。
- 病害虫のないもの。(葉の裏側もよく確認する)
- ポット苗をゆすって、苗がグラグラと揺れないもの。(根がしっかり張っている良い苗)
- 葉の色が、なるべく濃いもの。

* 本葉・・・最初に出る葉(子葉)のあとに出る葉。

* 徒長・・・肥料の過多や光線の不足などが原因で、植物の茎葉が伸びすぎること。

＜種からの栽培の仕方＞

種は、まく前日に一晩水につけておくと芽が出やすい。



1. ポットでつくる

ポットに土を入れる
(水をかけると沈むので
一杯 土を入れる)



指で押して少し穴を開け
種をまき水かけする



発芽して双葉が出たところ



2. バット、トレイでつくる

ざる状バットに土を入れる
(8割程度)



発芽して苗がくっつかない
くらいの間隔で種をまく



指で押して種の大きさの
2～3 倍の深さに埋める



発芽して双葉が出たところ



アサガオ作業カレンダー

月	5月	6月	7月	8月
作業	種まき			
		支柱・ネットの設置、追肥	追肥・草取り	
地植え	<p>ビニールポットに種を2粒ずつまく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本葉が出てポットの土に根付いたら、よい苗を定植する ・植え付けの間隔は30cmくらい 	<p>追肥をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2~3週間に1回程度 ・必要に応じて草取りをする 	<p>追肥をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2~3週間に1回程度 	
プランター	<p>プランターに種をまく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プランターは本葉が出てポットの土に根付いたら、よい苗1本を定植する ・鉢底から水が流れ出る程度までかけることが大切 	<p>追肥をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2~3週間に1回程度 	<p>追肥をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2~3週間に1回程度 ・必要に応じて、水やりを夕方も1回行う ・必要に応じて草取りをする 	
気をつけること	<ul style="list-style-type: none"> ・アサガオの種は、一晩水につけて、底に沈んだ種を使用すると芽が出やすい ・7mmくらい土をかける ・水撒きのホース・じょうろの先にシャワー口をつける 	<ul style="list-style-type: none"> ・追肥は、粒状の化成肥料でよい 		

※ 上記は、標準的作業カレンダーです。地域や環境により、発芽の時期・つるの伸び具合など生育状況は異なります。

※ フランターに種を直まきすると環境の影響を受けやすく、その後の管理が難しい。ポットやトレーに種をまき、苗でプランターに移植する方が管理はしやすくなります。

3. 日常の管理で大切なこと

ポイント 4

<水やり>

- 水やりは、成長のためにはだいたい午前 9 時(真夏は 8 時)までにすませましょう。暑い日の昼間に水やりをすると、葉や根を傷めてしまうことがあります。また、夕刻に水をまくと徒長しやすく、弱くなることがあるので注意が必要です。
- フランターの水やりは、鉢底から水が出たら十分な水が土中にいきわたった合図なので、それ以上水やりはしないこと。水やりのしすぎは、養分を水とともに流してしまい、また根腐れの原因となるので気をつけましょう。



<施肥>

- 元肥をしっかりと施すのはもちろんのこと、つるを伸ばしていくために、追肥を 2~3 週間 1 回は行いましょう。

<緑のカーテンを作るコツ>

ポイント 5

- 土中の養分が種を実らせることに使われないう、7~8 月までは、早めに花がら摘みをして、ツルを伸ばすことに使わせるように仕向けることが、プランターで大きな緑のカーテンを作るコツです。

4. 翌年の緑のカーテン作りの準備

<土の再利用>

- 1 年間使ってきた土は、そのままでは翌年度に使うことはできません。まず、土を 5~7mm 程度のふるいにかけて、根や雑草を取り除いたうえで、次のどちらかの方法で消毒して再生し、利用してみましよう。

1. 日光消毒

黒いビニール袋に土を入れ、密閉した上で上下を入れ替えながら、約 1 ヶ月くらい熱で消毒しましょう。

2. 冷気消毒

ビニールシートの上に土を広げ、霜にあてて消毒する。このとき、なるべく雨に当たらないようにしましょう。

- 処理した土の 1/4 を目安として、腐葉土を加えてよく混ぜる。
- 苦土石灰を、その土の表面がうっすらと白くなる程度(袋の使用説明を参照のこと)にまいて、よく混ぜたうえでビニール袋に入れ、翌年使用するまで休ませましょう。



5. ネット設置のためのアドバイス

植物のつるが伸びて緑のカーテンになるために、ネットの設置はしっかりと行いましょう。

- ネットの上部と下部をピンと張りましょう。
植物が成長するとその重さで、ネットの中央がたるんできます。上部と下部に園芸用の支柱を通すなどして、ピンと張った状態を保てるようにしておきましょう。
- 強風の折、風にあおられてネットが外れないように、四隅をしっかりと固定しましょう。ネット両脇にロープ、または園芸用支柱などを通し、そのロープ・支柱をしっかりと固定します。窓の柵等を利用するのもよいでしょう。
- ネット下部の両脇を結びつけるものが無い場合は、プランターの下に園芸用支柱を通し、その両端にロープを結びます。



6. 木枠を使ったネット張り

プランターの幅に合わせて木枠をつくります。最初の年は少し手間がかかりますが、数年間使用することができますし、麻紐などでネットを張れば、シーズン後に紐を切るだけで緑のカーテンの片付け処理ができます。木枠の作り方の詳細、マンションベランダでの木枠の設置例は当会の動画マニュアルをご覧ください。

7. 緑のカーテンに適した植物

このマニュアルではアサガオによる緑のカーテン作りを紹介していますが、その他にはニガウリ、フウセンカズラも比較的育てやすく、初めて取り組む方に適しています。平成 23 年度は、キュウリ、ヘチマ、ユウガオを試験的に植えてみました。

・キュウリの場合、緑のカーテン作りと収穫の両方を求めるとやや難易度が高く、何度か緑のカーテン作りをして基本の育て方を知った上で取り組むと比較的うまく成育するでしょう。

・ヘチマはキュウリに比べると育てやすいのですが、多量の水やりが必要です。プランターでは乾きやすいので、地植えのほうが適しています。たっぷりの水をやれば、ヘチマも収穫でき、緑のカーテンも立派に育ちます。また、成育力が強いのでプランターの場合は他の植物と一緒に植えないほうがよいようです。ヘチマのみの場合でも、1プランターに1苗で充分緑のカーテンとして育ちます。

・ユウガオを育てるのはどちらかといえば易しく、葉が大きく成育力が強いので見事な緑のカーテンになります。朝日ではなく夕日が強く射す窓辺では緑のカーテンとしての効果は大きいといえます。

・緑のカーテンにする植物は、
花を楽しむ
収穫を楽しむ
緑のカーテンをつくる窓辺の向き
植え方(プランターか地植えか)
などの条件を鑑みて、植物を選ぶとよいでしょう。

***このマニュアルはエコポイント環境寄付の助成により更新しています。**

平成 22 年 5 月初版
平成 22 年 6 月改訂
平成 22 年 11 月改訂
平成 23 年 11 月改訂

NPO エコバンクあいち 〒491-0042 愛知県一宮市松降一丁目 3 番 9 号
電話 (0586) 82-6778 FAX (0586) 82-6878
Eメールアドレス info@eco-bank.jp ホームページ <http://www.eco-bank.jp>

このマニュアルは、保育園・幼稚園、企業等の非営利活動、非営利団体の非営利活動、営利を目的としない個人が使用できるものとし、営利目的の無断使用はお断りします。ご利用いただく際は、ページ下部に記載しております「制作・著作NPOエコバンクあいち」を掲載してご利用願います。